

通話録音日：2024(R6)1016

反訳者：野村一也

[野村]

だから、蘭越町を窓口として、情報公開を出して、審査会に対して、どこに頼んだのか、いくら払ったのかを請求したら、出るか出ないかっていうか、蘭越町が窓口となるべきだと思って、事前に打診をしてるんです。それについて調べて、連絡ください。

[福岡]

はい。

[野村]

もう僕の手には負えないと思うんだったら、代わってください。他の人に。お願いします。

[福岡]

はい。

[野村]

もう散々おくれてるから、明日電話ください。よろしくお願いします。

[福岡]

野村さん私もやること、これだけじゃないんですよ。

[野村]

僕だってこれだけじゃないよ。僕だって。

[福岡]

お互い・・・

[野村]

じゃあ、いつやるんですか？いつやってくれるんですか？

[福岡]

それだけで急に明日までに・・・

[野村]

だから、いつまでやるんですか？

[福岡]

先ほどの弁明書の話もありますけど、

[野村]

だから、いつまでにやるんですか？あなたの意見を聞いてるんです。明日じゃなくていいよ。

[福岡]

大きい声出してきますね。

[野村]

だから、いつだったらいいんですか？いつまでにやるんですか？

[福岡]

法律的な中身を調べて、その考えをって言われても、ちょっと、それで明日までって言われるのは・・・

[野村]

だから止めたでしょう？撤回したことを、いつまでも、ダラダラ言うなよ。

[福岡]

いやあ・・・

[野村]

撤回しましたよね？僕は。撤回しましたよね？明日までじゃなくていいと。撤回しましたよね？

[福岡]

撤回しましたか？

[野村]

撤回しましたよ

[福岡]

聞こえませんでした。

[福岡]

一分前に行ったことを、何回も何回も繰り返すんだよ？

[福岡]

聞こえないんですって、そうやって、大きい声、出されると。

[野村]

撤回しました。撤回したことを繰り返して持ち出すのは止めて。僕は聞いているんです・・・

[福岡]

何でも許されるんだったら、私、何回でも撤回します。私、もし変なこと言ったら、ずっと攻め続けられているん・・・

[野村]

いいんだよ、撤回すれば。

[福岡]

すぐ撤回すれば何でも許されて、それ、おかしいと思うんです。前から。

[野村]

ちょっと待ってくれよ。僕は、あなたが撤回すれば、その二つ返事で認めてるよ。あなたが撤回しないから、しつこく言ってるんだよ。あなたが、今日の、打ち合わせの中で、あたかも何も聞いてないかのような言い方をして、それに関して「1時間以上話をしましたよね？」それをあなたが認めなかったから、追及してるんだよ、あなたが認めて、「確かに聞いてました」「すみませんでした」と、「失礼なこと言ったことは撤回します」と言えば、僕はこれで終わるんだよ。あなたが認めないから、追及してるんだよ、どうぞ反論して。

[福岡]

反論はしません。

[野村]

反論できないんだよ。あなたは。

[福岡]

できませんねもう、はい。もう何も・・・

[野村]

何もできないんだったら、止てくれよ、もう僕の前に立つのは。あなたじゃ無理だよ。あなたの言語能力じゃ無理だよ。

[福岡]

はい。

[野村]

代わってくれよ、他の人と。今日送ったやつは、渡辺さんにも見せて聞かせて。渡辺さんも居る前でやってることだから、あなたは渡辺さんがいる前には、カッコつけるからね。自分では、「無理だ。もうできません」と「渡辺さんに言ってくれ」と言いながら・・・

[福岡]

そのようにはい、

[野村]

言いながら。渡辺さんの前では、言わないじゃないか。他の上司がいる前で言わないじゃないか。僕の前でボソッと言いながら。

[福岡]

あなたに「できない、できない」って言われるから、もう・・・

[野村]

だから撤回すればいいんだよ。じゃあ、「できません、と言ったことは、撤回します」と言えば。

[福岡]

はい、撤回させていただきます

[野村]

あなたは、これからも続ける気なんですか？僕の窓口を。僕の窓口を続ける気なんですか？できると思ってるんですか？

[福岡]

そうゆう言い方されると、「できない」というふうに言いたくなりますけども。ただ私は・・・

[野村]

僕は、無理だと思ってるから言ってるんです。簡単なことを、本当に何回も何回も同じ失敗を繰り返してね。

[福岡]

何ですか失敗って

[野村]

メールの話。あなただけじゃないかもしれないよ。

[福岡]

メールの話は、私、受診したときに、必ず受信しましたっていうメールを送ると、約束したと思うんですけども・・・

[野村]

その話の、その話を・・・

[福岡]

私の話は無視なんですか？

[野村]

その話については・・・

[福岡]

聞いていただけないんですか？

[野村]

その話については、電話記録を確認しました・・・その記録に持ち出すのには、ちょっと時間がかかるから、今、あなたにこの場で「こうですよ」という風

に・・・

[福岡]

あのメールの受信の中でも、その文言入ってるのはあると思いますんで・・・

[野村]

あなたが言ってるのは何？「確認して欲しい」と言ってる内容・・・メールの受信を、あなたは、その言葉の経緯のやり取りは、あなたは自分で自分の、自分の過ちじゃないことを僕に主張するために、メールが、仮にエラーメールが帰ってなかったとしても、自分はちゃんと、返信を返すから、「それを見れば、あなた判断つくでしょ？」と「メールがなかったら、届かない可能性をあなたが自覚して当たり前でしょ？」と言わんばかりの、言い方をしたんです。そう聞こえたんです、僕には。「メールを、返してるでしょ？」と「いつも返してるでしょ？」と。

それに対して、僕は長々と説明した上で、今、あえて言いません。長々と説明した上で、あなたが「返してますか？」と言ったら、あなたは言葉をひるがえして、「何でそういう論理になるんですか？」と、今まで言ってた内容をひっくり返したんだよ。

そこまで組み立てていながら、僕がそれを追求して、つまりあなたが、実際に返していないことがあることを、突き詰めようとしたら、あなたはそれを、自分が今まで盾にしていたことをひっくり返したんですよ。それで僕は呆れたんです。

[福岡]

まあ・・・

[野村]

聞いて、あなたがそこまで自分で、あたかも「自分が正しい」と言うんだったら。最後まで聞けよ。我慢にも限度があるよ。録音聞かせる。今さっき、午前中、散々、2時間も3時間も4時間もあなたの声を繰り返し聞いて、整理した文書があるから。

[福岡]

・・・あん・・・まあ・・・

[野村]

そこまで開き直れたら、頭にくるさ。こっちは。何回も何回も、あなたも、1-2分前に行ったことをひっくり返すようなことを散々やられて。今、探すから待ってて。30秒でで見つかるから。

[福岡]

二つのプロポーザル・・・

[野村]

待って。

[福岡]

はい。いまお伝えしようかな、と思ったんですけど・・・教えなくても大丈夫ですか？

[野村]

メールじゃないよ。電話の記録、通話の記録だよ。あなたと話してるのは。

[福岡]

そうですか。私は今、先ほどなんかメールって・・・

[野村]

何言ってるんだよ、あんなに聞いているのあなたなんでこれは今の話がメールに繋がるんだよ。ね、僕は言葉でのやり取りの話を、たった1、2分前にね、あなたとしてませんでした？

[福岡]

してましたよ。

[野村]

なんでそこでメールの話になるんだよ？。

[福岡]

いや、メールで3日・・・受信メールをしたときの・・・いつだったろう、とい

う話を今もしたと思うんですけど・・・

[野村]

はあ？

[福岡]

それが知りたいってわけではなかったんですか？

[野村]

僕は、あなたとのやり取りの記録の話を散々してたでしょ？ 1-2分前に。なんでそれがメールの話になるんだよ。

[福岡]

いやもう止めてくれます？もう怒鳴り声ずっと続けられるの・・・

[野村]

我慢にも限度があるよ。我慢にも。

[福岡]

我慢にも限度があるかもしれないですけども、今日会ったときも・・・

[野村]

我慢にも限度があるよ。あなたちょっと待って、あなた、自分の理解不足をタナに上げて、それがあたかも、自分が悪いとあなたも同じだと、人を攻撃する言葉を、さんざん今日も使ったんだよ。僕を攻撃する言葉を。

[福岡]

私、攻撃する言葉を使いました？

[野村]

してる、「あなたの方こそ」と。「野村さんの方だって、そうじゃないですか」と。これブーメラン攻撃なんだよ。自分が攻撃されてる言葉をそのままに相手に返すやり方なんだよ。そういうやり方をするんだったら、当然、相手の防御に対して、回答するのが当たり前だろう。

[野村]

ね、あなたは分かってないけど、言葉だって戦争なんだよ。白黒はっきりさせるときには。利害が関係する、人のプライドがぶつかる、そんな場合、なあなあで終わらないんだよ。あなたは人を攻撃してるんだから。

[福岡]

いや、それは逆ですよ。

[野村]

ちょっと待ってくれよ。ちょっと待ってくれよ。電話の話。

(録音した音声の反省)

[記録の再生 (野村の音声)]

求償権っていうのがあるんですよって・・・

[記録の再生 (福岡の音声)]

「確認しましたというメールは送ります」ということで、私をお約束して返している・・・

[記録の再生 (野村の音声)]

つい最近のもので、それが1週間経っても帰ってこないからね、もうあなたのことを信用してないよ。僕は。

[記録の再生 (福岡の音声)]

それを言われてしまうと、ちょっと・・・

[記録の再生 (野村の音声)]

今調べます。ちょっと待って。今、調べます。

[記録の再生 (福岡の音声)]

はい。

[野村]

黙って聞いて、

[記録の再生 (福岡の音声)]

私とそれ以上はもう終わりということですか。

[記録の再生（野村の音声）]

違う。あなたが言ってるのは、あたかも自分が速やかに返してて、それによって届いたか届かなかったかが分かるかのような言い方をするから・・・

[記録の再生（福岡の音声）]

そのような言い方はしてませんが・・・

[記録の再生（野村の音声）]

もうあなた無理だよ。人との・・・

[野村]

「そのような言い方はしてません」と、あなたはもう1ー2分前の言葉を否定してるんだよ。1ー2分前の言葉を。1ー2分前前に戻りましょうか。黙って聞いて・

[通話記録の再生]

（記録をサーチしながら再生）

[野村]

「私は、受領メールをちゃんとね返すという約束をして、それを見れば分かるでしょ？」と言わんばかりの言い方をしてるんだよ。これは今、生の声だから録音じゃないから。聞いてますよね。今、あなたが、この電話の中でも同じようなこと言ってるよ、それに対して、10月の11日の中では、このときには、本当に、あなたは、「ちゃんとやってるのかい？」ということを探そうとしたら、あなたすごく嫌がって・・・

[通話記録の再生]

いや、そのような言い方をしてませんが

このような言い方はしてませんと撤回するんだよ。いや、1分も経たずに撤回する言い換えたではないと思うんでちょっと待ってもう1回聞いて、もう1回聞いて、何回でも聞かせるよ。

[福岡]

いやあ、もう時間ないんですよ・

[野村]

1回聞かせるよ、あなたが自分の、自分の理解不足を棚に上げて、人を攻撃するから、当然、あなたは聞くべきなんだよ。

[福岡]

「今の言葉で攻撃してる・・・」

[野村]

今の・・・何言ってるんだよ。今の言葉なんていうのは、僕が、あなたに「攻撃」という言葉を使ったのは、今日の面談の中で、「お互い様だ」とか。「あなたの方こそ」とか、そういうことがブーメラン攻撃っていうものなんですよと、この電話の中で説明したでしょ？何が攻撃なのかを。そんなことも貴方は分かってないんだよ。何にも分かってないんだよ。我慢にも限度があるよ。何にもわかってない。あなた、人が言ってることを。理解不足にも限度があるよ。反論してくれよ。

[福岡]

いや、もういいです。はい。話をしても「ブーメランだ」と言われるので、反論することに・・・

[野村]

なんでだよ。違うでしょう？ブーメランと言ったのは、あなたの攻撃に対して言ったんだよ。なんで、あなたはそこまで、人の言葉を、まともに捉えられないんだよ。ブーメランっていうのは、あなたの攻撃の一手法に対して使った言葉でしょう、今、僕があなたの電話の中で攻撃したとは一言も言ってないよ。全くあなたは理解力がないよ、全く無理だよ。

[福岡]

野村さんの話を理解する能力が全然ない・・・

[野村]

全くないよ。あきれよ、僕は。

[福岡]

はい。

[野村]

このことはちゃんと渡辺さんと一緒に聞いて、どうするか決めてくれよ。我慢にも限度があるよ。僕は温度なんか上げたくないよ。あなたと喋っていると、まともな温度じゃ喋れないよ。時間がいくらあっても足りないよ。どうするんだ？もう止めてくれっていう話をしてるんですよ、僕は。あなたが僕の窓口立つのは、止めてくれと。

[福岡]

はい。

[野村]

止めて、もう、2度と立たないで。お願いします。